

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

米国競馬の祭典と称されるケンタッキーダービーは今年、節目となる150回目目の開催を迎える。その総賞金が、2023年の300万ドルから24年は500万ドル(約7億3325万円)に大幅アップすることをチャールズダウンズ競馬場が発表したのが、1月10日のことだった。これは、米国における年間王者決定戦的位置付けにあるBCクラシックの600万ドルに接近する数字で、2競走が米国において双璧をなすという構図が、益々鮮明になったと言えよう。

そのケンタッキーダービーへ向けて、多くのブックメーカーが前売り1番人気に推しているファイアースネス(牡3)が、今月のこのコラムの主役である。

ファイアースネスは、馬主マイク・リポール氏(55歳)による自家生産馬だ。リポール氏と言えば、スポーツドリンクの製造販売会社を興して大成功し、その会社を大手飲料メーカーに売却して巨万の富を手にしたという、アメリカカンダリムをかなえた実業家として知られている。同時に生粋の競馬好きで、初めて馬を持つたのは10代の頃だったが、本格的に参画するようになったのはここ20年ほどで、初めて持った大物が10年の米最優秀2歳牡馬アンクルモーだった。その後も、11年のG1トラヴァーズなど2つのG1を制したステイサーステイ、15年のG1BCデ

イスタフなど3つのG1を制したストップチャージングマリヤ、16年のG1ウッドメモリアルS勝ち馬アウトワーク、19年のG1BCクラシックなど2つのG1を制したヴィーノロッソ、22年の米国最優秀3歳牡馬ネスト、22年のG1ベルモントS勝ち馬モードネガルらを所有してきた。そして、満を持して競走馬の生産にも手を染めることになったリポール氏が、生産者として送り出した初めての世代からファイアースネスが出たのだから、相当に強い馬運をもった人物である。

ファイアースネスの牝系は、祖母ノンナミアが2歳G1フリゼットS(d8F)の3着馬。そして叔父に、リポール氏の所有馬としてG1ウッドメモリアルS(d9F)を制したアウトワークがいる。超一級とまでは言えないまでも、血統背景は水準以上と言えよう。

ファイアースネスの父シテイオウライトは現役時代、G1マリブS(d7F)、G1トリプルベンドS(d7F)、G1BCダートマイル(d8F)、G1ペガサスワールドC(d9F)と、7F〜9FのG1を4勝している馬だ。19年にレインズエンドファームで種牡馬入りし、ファイアースネスは2世代目の産駒の1頭になる。初年度産駒から出た重賞勝ち馬は現在のところ、G3UAEOークス(d1900M)勝ち馬ミミカクシだけだから、2世代めからこれだけの

大物を出すことを予想していた人は、それほど多くなかったはずだ。

トッド・ブレッツチャー厩舎に入厩したファイアースネスは、8月25日にサラトガのメイドン(d6F)でデビュー。調教で非凡な動きを見せていた同馬は、オッズ2.1倍の本命に推されたが、これに承えて2着以下に11/4馬身差をつける鮮烈なデビューを飾った。

これに意を強くした陣営は、ファイアースネスの次走にアケダクトのG1シャパンS(d8F)を選択。ここでの同馬はオッズ1.55倍という圧倒的1番人気に推されたが、スタートダッシュに失敗して後方からの競馬になると、そのまますすすもなく8頭立ての7着に大敗してしまった。

それでも、陣営のこの馬に対する評価は変わらず、続いて臨んだサンタアニタのG1BCジュヴェナイル(d8.5F)では、2番手から抜け出す競馬で後続に6.1/4馬身という決定的な差をつける快勝。世代の最前線に躍り出るとともに、ケンタッキーダービー前売り1番人気の座を手にしたのである。

2月4日にガルフストリームパークで行われるG3ホーリーブルS(d8.5F)が、今季の始動戦になる予定のファイアースネスに、日本の皆様もぜひ注目いただきたい。